

科目名	歴史学					学期	前期		
副題	日本における歴史思想と史学の展開				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M2-12	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

授業の目的と概要

本講義では、日本における代表的な史書や歴史家を取り上げ、各時代の歴史思想の特徴を考えるとともに、歴史学と社会との関係について透徹した理解を得ることを目的とする。あわせて、日本史を研究する上では、厳密な史料批判や、数多の史実を総合的に判断する能力も必要となる。そこで、これらを習得するための学問的素地を整える。

授業の到達目標

日本の各時代における歴史思想の特徴、史書の持つ豊かさ、歴史学の発展について、関係史料・講義内容を踏まえて正確に説明できるようにすることを目標とする。

授業計画

1. 歴史思想・史学史を学ぶ意味①
2. 歴史思想・史学史を学ぶ意味②
3. 『日本書紀』とその周辺
4. 平安時代の国史編纂
5. 『栄花物語』と『大鏡』
6. 慈円と『愚管抄』
7. 北島親房と『神皇正統記』
8. 林家と『本朝通鑑』
9. 近世史学の発達と『大日本史』
10. 『大日本史』編纂と史料探訪
11. 塙保己一と和学講談所
12. 明治以降の歴史編纂と史料集
13. 近代史学の発展と民間史学
14. 大正史学の群像
15. 総括（レポートの講評）

準備学習(予習・復習)・時間

- 【予習】事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、歴史学や史学史に関する専門用語の意味を理解しておくこと（100分）
【復習】講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（30分）

テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

参考書・参考資料等

- ①遠藤慶太『六国史』（中公新書、2016）、②大隅和雄『愚管抄を読む』（講談社学術文庫、1999。初出1986）、③久保田収『近世史学史論考』（皇學館大学出版部、1968）、④マーガレット・メール著、千葉功・松沢裕作訳者代表『歴史と国家』（東京大学出版会、2017）、⑤坂口太郎『大正・昭和戦前期における徳富蘇峰と平泉澄』（北九州市立松本清張記念館、2019）

学生に対する評価

レポート（100%） ※3000字以上

ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本史学史に関する基礎的事項を理解している。
(B) 日本史学史について、講義内容を踏まえて具体的に説明できる。
(A) 日本史学史について、講義内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
(S) 本講義の内容を踏まえて、日本史学史について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

その他

本講義は、歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、予復習を欠かさずに受講してほしい。基本的に講義形式を取るが、討論も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。なお、「授業計画」に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバス通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。